

2015年3月 4年生の総合の時間

教材『大きな木』（シェル・シルヴァスタイン、村上春樹訳）

昔、りんごの木があって、かわいいちびっこ仲良しでした。ちびっこは木と遊び、木が大好きで、だから木もとてもうれしかったのです。時は流れ、ちびっこだったぼうやは成長して大人になっていき、木に会いに来なくなります。ある日、大きくなったぼうやが木のところへやってきます。木は昔のように遊んでおいきと言いますが、ぼうやは言います。「かいものがしてみたい。だからおかねがほしいんだ。おこづかいをくれるかい。」木は困りましたが、りんごの実をすべて与えます。

大人になったぼうやは家を欲しがり、木はその枝を与えます。年老いたぼうやは船を欲しがり、木はついにその幹を与え、切り株になってしまいます・・・

絵本『大きな木』を読み聞かせた後、

教師：一回聞いただけですけど、何かありますか。

(12分40秒)

A：質問だけどいい。なぜ木は、小さい時も、大人になっても、年を取っても、相手に少年と呼びかけているの。(すぐに多くの子が手を挙げる)

B：木からしたら、そのボーヤはかわいいから、かわいがっているから、少年て言う。

C：自分より年は下だし、**B**と同じで、かわいがっているし、名前も知らないから、少年と言っている。

D：小さい時から、一緒に遊んで、楽しい思い出がいっぱいあるから、木は、(相手を)いつまでも少年と思っている。

E：話はちょっと変わるけど、家が欲しいんだと言ったから、少年は小さい時とか、それまで家はなかったのか。

F：僕も話を変えるけど、村上春樹さんの本は不思議だなと思った。

G：村上春樹さんは翻訳しているから、原作を作ったわけではない。

教師：なるほど、確かに。原作ではないな。

H：Eの疑問で、多分少年は小さい頃、お父さんとお母さんと暮らしていたけど、大きくなって、自分の家が欲しいと思ったので、木に言ったのだと思う。

I：Hと同じだけど、最初はお父さんとお母さんと一緒に家で暮らしてて、だけど、大人になってきて、自分の住む家が欲しいから、欲しいと言った。

J：僕は、何か、ちょっと話は変わるのだけど、少年は何か、欲張りだと思って思った。

教師：少年は欲張りな一、か（Jが頷く）。

K：・・・少年に幹とかあげたりしていて、何か、幸せの気持ちは分るけど、私だったら、何でそんなに自分の体がなくなっていくのに、うれしいと思うのか。

L：Kに対してだけ、少年のためには自分が死んでもいいと思っているのではないですか。

M：Lと同じだけど、その木は、その木は少年が大好きだって書いてあったから、少年が喜んでくれるのなら私はどうなってもいい、と思った。

N：LとMと似ているけど、少年に会えてうれしかったから、自分はどうなってもいい、自分のことは何も考えていない。

O：LとNと同じ疑問で、あれ、忘れた。

P：Jに似てて、お金を下さいと言うのは、自分で働けばいいのになって思った。汚い奴だなと思った。

教師：（笑う）

F：えーまあー 少年が木を切って船ができた時に、切った時に、切った木に命がなっているのかなあ。ちがう。

Q：少年に、木が枝とか幹とかあげて、幸せになりなさいと言っているから、少年にそこまでして幸せになって欲しいのかなって、思った。

R：木はリンゴをあげたり、幹をあげたりしてて、少年にすごくやさしい。

S：Rと同じで、リンゴとかいろいろあげているから、木は少年が大好きなんじゃないかな。

T：木は、少年にいろいろいっぱいあげてるけど、でもその少年は10年か20年に一回しか来ていないんだったら、別に少年は欲張りというわけではないし、木も別に、優しいけど、それほど別に、何か、それほどあげれるというのはほんとに少年を大事にしている。

U：少年が来なくて、また来て、最初は中学生とか高校生くらいだったけど、次に来た時にはオジさんになってたから、もうその時、また実とかリンゴとか生えてきたり、枝もちょっとずつ生えてきたりしたと思うし、また題名が大きな木だけど、全然大きな木というイメージはなかった。

（10分経過。最初のテープは終わり）

V：僕もこの本を持っていて、いい話だし、素晴らしいという感じもあって、いつ読んでもそんな感じがして、まー、疑問もいろいろあって、ちょっと不思議なところもあるなって。

W：木は少年のことが好きだから、自分の持っているものをあげて、少年に幸せをあげたいのだと思う。

M：大きな木は自分のことを考えずに、少年のことを考えているのかなーって思ったし、少年は、言いたい放題に言って、相手の気持ちのことを全然考えていないのは、なんですかなーって思った。

教師：あたっていなそうな人に回して。

X：木は、少年は幸せやったら、自分も幸せになれるのじゃないかなって思う。

N：感想やけど、何か、船を作るとき、大きな木を切って、登れないのに、何で丸太だけ一人で持てたのかなーって、ちょっと思った。

教師：ちょっと貸して。割とすごく手が挙がるからさ、一周回してみるの、これまでの話を聞いて思ったことを言ってくれるかな。次から次に意見が出るので、回してみるのがいいと思ったので。

- ・ Y：何でこの本の題名が大きな木なのかなーって思った。
- ・ I：Yさんと似てるけど、たいして大きな木でもないのに、何で大きな木っていう題名なのかな。
- ・ G：わたし的に、少年がおじちゃんくらいになった時に、木が、何か、遊びなさいとか言った時に、少年が忙しいからいやとか何とか言って、その次に、船が欲しいとか言ってて、忙しいなら働いているはずなのに、何で全部木にお願いするのかな。
- ・ A-3：Gさんと一緒に、木は優しいし、少年は木の気持ちを全然わかんないと思う。
- ・ X（黒のブチのあるシャツを着た子。かなり発言を迷っていたが、回してもいいと聞いて次の子に回す）

教師：いいよ、さっき言ったから、一回言ったからいいよ。

・ T：大きな木はちょっと性格が変わっているなって思って、普通だったら自分の木が取られたり、枝を取られたりしたら、普通だったら悲しむけど、少年がうれしくなったら自分も幸せになったりして、少年が年を取っても、ずっとずっと少年と言っているから、この木は性格が変わっているなと思った。（この子は自分の言っていることがそれなりに論理的であることを楽しんでいるようである）

・Z：えっと、僕は大きな木っていう題名は、どういう意味か、多分、少年のために、少年から大人になるまで、大きなことを成し遂げたから大きな木だと思った。

・D：木が枝とか幹を少年にあげるのは、少年のことが大切な友達だったから。

・U：題名の大きな木は、多分、心の大きな木だと思う。木の幹で船を作れるくらいだから、見た目よりも大きいかもしれない。

・A：少年は小さい時は、木は少年よりも大きいから大きな木と思ったけど、Uさんの意見を聞いたらやっぱり心が大きい木なのかなーって思ったことと、少年は自分でせずに・・・
(5分41秒+10分)

・V：Uさんと同じで気持ちがいかに、いろんな大きいがこもってて、その大きな木を、大きさ、木の大きさとかは、多分いろんな木の中でとっても大きいということだと思う。

・A-2：Kさんの疑問とかで、どうして自分の体を削って、少年にあげて、ハッピーになるんだというんで、それは、自分の身を削ってでも少年に幸せになって欲しいということと、さっきJさんとか今Pさんとかが、少年は欲張りだと言っていたけど、子どものときとかは、木のことが大好きでしたと書いてあって、誰よりも、何よりも木のことが好きでしたって書いてあって、私だったら、そんな毎日毎日木と遊ぶより、家でゲームとかした方が楽しいし、毎日木と遊んでいて飽きないし、それはあんまり欲張りじゃないのかなーって思った。

・P：A-2さんの聞いて、欲張りじゃないと、意見が変わって、やっぱり、木が喜んでるし、遊んであげているし、木も喜んでるから、欲張りではないと思う。

・Q：さっきも言ったけど、木はそこまで少年のことを思っているのかなって。

・B-2：Iさんに対してで、大きな木って書いているけど、小さな木だとか言っていたけど、あんまり大きくないとか言っているけど、本がちっちゃいだけで、本の中身は、その木はめっちゃでかいと思う。(笑い)

・N：A-2さんと似てて、自分の体をあげたりしているので、それだけ少年のことを大事に思っているだなんて思った。

(9分18分+10分)

・C-2：僕は、題名は大きな木じゃなくてもいいと思って、心の大きな木でも小さな木でも中身とかが題名と似てるなーと思った。

・K (パス)

・F：僕は、二つあって、一つはEさんが大きな木といっても本当は小さい木と言って、大きくないと、リンゴは実はならないから、B-2さんが言ったように、本が小さいだけで、本当はもっと大きいかなと思った。二つ目は、木にとって、少年は心の支えであって、少年がおらんと、さみしいから、少年と会うことしか楽しみがないから、それで、いろいろなものをあげたのかなーって思った。

- **D-2**：私は、木が少年にいろいろなことをしてあげるから、優しすぎるなと思った。
- **R**：少年は、自分のことをいっぱい考えている、自分は、木がなくなってきたのに、胴とか、頂戴と言っている。
- **E-2**：木はあんなにやさしくしているのに、少年は何もしてあげない・・・。
- **F-2**：（いろいろ語っているが、よく理解できない）
- **G-2**：僕は、大きな木という意味が、どうしてかなと思っていただけ、Eさんが心の大きい木って言ったので、多分そうだろうと思う。

（2本目のテープの13分10秒+10分）

- **M**：私もEさんが心の大きな木と言ったので、そうかなと思った。
- **H-2**：私は何で少年にいろいろなものをあげたりして幸せなのかなって思った。そして、それは、木は、少年がいない間は悲しくて、Fさんも言っていたけど、木は少年がおらんかったら人生が楽しくなくて、少年が人生の楽しみだったので、それでも幸せだった
- **L**：少年はお母さんからもらった大切な命があるから、その命を多分木は守りたいから木は少年に優しくしているのだと思う。
- **I-2**：ちょっと算数みたいになるけど、普通のリンゴはこれくらで、絵のリンゴはこれくらいやから、普通のリンゴの10倍、あるいはもっとあるかもしれん、19倍くらいあって。だから木の、木×19で実際の木の高さになる。
- **Z**：少年は小さい頃は木とずっと遊んでいたけど、おじさんになっていくごとに、その木の一部をもらっているのに、ありがとうとも言わない、友だちだったのにありがとうとも言わない、何でありがとうと言わないのかなって思った。
- **S**：小さい頃、少年はいつも遊んでくれていて、木はまたもう一回だけ遊んで欲しいなと思った。

（16分+10分）

- **C**：小さい頃は楽しく遊んでいたけど、だんだん、年取ってくるごとに、忙しいからとか、何か飽きたみたいな感じで言っているのは何でかなと思った。
- **J-2**：二つあって、一つは、少年は何かちょっとバカやなって思って、木にお金くださいと言っても、木がお金をくれるわけでもないのに、何でそんなお願いをするのか。もう一つは、前の**H-2さん**に対してで、木は、何か、少年の助けになれば、何でもしてあげる。
- **W**：木は少年のことが好きだから、自分でできることがあれば、少年に何でもしてあげるのだと思う。
- **K-2**：少年は自分のことしか考えていないけど、木は少年思いで、毎日少年のことしか考えていないなって思った。

子どもの発言は一周する。

教師：それでまだ手が挙がるんか、それでもってさー、どう言っていいいかなー、(子どもたちがたくさん手を挙げているので) 言いたいことがあんの、それなら、Zさん何がいたいの。

Z：えー、何ヤッケ。アッ、忘れた。(笑い) Pさん。

P：えーっと、俺だけかもしれないけど、勘違いしていて、切り株を、船を作るときに取られたときに、全然よくありませんと言っていたけど、最初何でかな、自分のやつがなくなっていくからやなと思ったけど、今は少年が遠くに行っちゃうから、いややのかなと思った。

J-2：少年は木のことを何かあんまり思ってなくて、自分思いやけど、木は、反対に、自分は全然関係ないっていう感じて、少年のことしか考えていない。(このことは他の子がすでに言っているのに、自分も言いたい)

(19分 17秒+10分)

教師：すごいな、でもね、チャイムが鳴るので、最後に一つ C-2 さんに聞いてから。
(子どもたちの反応がすごい。最後に当てられたからうらやましいのか)

C-2：最後に、Kさんとかが言っていたけど、自分の体を削ってでも、幸せっていうのは、何か、やってあげることによって、本当に幸せになれるのと同じで、それで、最後は切り株だけになって、何もあげることができなくなって、木は、最後は、幸せではありませんでしたって言った。(教師は感嘆の唸りをあげる)

教師：(もう一度ボールを受け取って) ほなら、Vさん。

V：みんな、何か、木がかわいそうとか言っているけど、僕はそう思わなくて、切られるのはかわいさうやけど、でも、木は自分から、家がなかつたらこれを使ってって、それなら自分は幸せになれるって、そういう意味で渡しているので、別に木はかわいさうではなくて、木は逆にうれしいのだと思う。

(20分 45秒+10分)

(議論はかなり深まっていく)

教師：話は尽きないな。こんなに話が続くとは思わへんかったから。チャイムが鳴ったので休憩にします。

(次の授業)

教師：この話を少し変えていこうと思うけど、今手を挙げている人だけは、話してもらうけど、次、話変えるからね。YさんとIさんとXさんとTさんとNさんとZさんだけね。

Y：「昨日、何か」という質問。（これは、物語そのものとは関係のない質問）

教師：あれはね、僕と木というのが書いてあったんねん。（生徒、何それ）彫刻刀か何かで彫ってあったんやと思う。

I：Vさんが前の時間に言ったみたいに、大きな木の大きくなっていうのは、多分、心とか、気持ちとか何か、そういうのが大きいっていう意味。（この子は、最初の自分の質問に対して納得した回答が得られたので発言している）

X：（ボールを回した時には発言しないでパスしていた）木は、少年が大人になっても、遊びなさいとか言っていたから、木は少年が大人になったことが分っていない。

T：C-2さんとJ-2さんの質問について、C-2さんは心の大きな木でもいいんじゃないかと言っていたけど、多分作者は何で大きな木にしたかというのを、みんなで考えて欲しかったから大きな木にしたんやと思った。で、あとJ-2さんの、お金をくれなんて言ってバカやとか言っていたけど、確かにバカやと思うけど、でも多分、少年は木のことを信じているから、何か、絶対できないということを言って、ちょっとでも木にお金をもらえるようなことを、それに近いようなことをしてもらえるとあって、言ったんだと思う。

N：少年の方は自分のことしか考えてなくて、木は相手のことしか考えていないから、性格は正反対やなんだなと思った。

Z：題名は大きな木だけど、最終的には小さな木になった。（笑い）

（2分40秒）

教師：どういうこと。

Z：切られてどんどん小さくなっていった。

教師：あ、そうか。なるほど。（ボールを返してもらって）すごいね、みんなね。それぞれ自分の考えをいろいろ言えたんだけど、先生も本当に驚いた。まだ話したい人はたくさんいると思うけど、ちょっと、問いを今からいつも通り作っていこうと思うんだけど、今日はなぜ筆箱を用意してもらったかという、ここに紙があります。いつも通り3人に一つこれを渡しますので、みんなで話し合ったらいいかなという問いを3人で相談して書い

ていって、ここに先ず3人の名前、そして誰が言ったかと名前、問いをたくさん相談して書いていって欲しい。

(紙には「グループで思いついた問いをどんどん書こう!、メンバー名前()()()とあり、その下に表があって、表の左に問い、右に名前と書いてある。紙を渡し終わる:5分)

グループで思いついた問いをどんどん書こう!

メンバー 名前 () () ()

問	名前

この話を聞いて、みんなで話し合ったことを思い出しながら、みんなでこんなことを考えられるかなって思えることを相談して書き出して欲しいと思います。小さな円を作ってやってください。(5分ほどの時間を与える。子どもたちは熱心に議論している)

テーマを黒板に書く

「大きな木」から問いをつくろう!
思いつくことをどんどん出し合おう
話し合いを思い出して

改めて、円にもどる

教師：この間、小さい頃は夢がたくさんあったのに、成長すると一つになるのはなぜか、という話をしたよね。その時の **A さん** の振り返りにこんなのがあったけど、「みんなと、たくさんあった夢が成長すると一つになるのはどうしてか、ということで、そのトピックを出した時は、みんななかなか意見が出なかったけど、円になりコミュニティーボールを使ってみんなで話すことで意見が出てうれしかった。私はなかなか深く掘れないなと思ったけど、みんなと深く掘れた。楽しくやれた。」振り返りの紙に話は深く掘れましたかというのがあるけど、今問いを作っていて、なかなかうまく思いつかないところと、どんどん思いついているところと、いろいろなグループがあるけど、でも一つだけ大切にしたいのは、**A さん** が言ったように、みんなで深く掘れる問いを考えて欲しいねん。みんなで深く考えられるような問い、それを考えて欲しいねん。

(床に「みんなで」「深く」「ほれる」「問い」という 4 枚のカードを広げて見せる)
要するに、いろんなことが言えてみんなで考えられるような問いを見つけて欲しい。ちょっと難しいかもしれへんけど、こういう問いを作るのは難しいとは思うけど、なかなか見つけられそうもないところとか、深く掘り下げることができる問いばかりのところもあるけど、そこを考えると、もう少し話し合ってみてくれるかな。あと 5 分間だけ延長するからね。

(子どもたちはまたグループで円を作って話し合う。)

教師：それでは、みんなで深く掘れる問いを選んでほしい。それぞれたくさん考えたけど、みんなで深く掘れそうな問いを、その中から一つ選んで、この紙（このクラスでは一日の反省として、今日の名言というのを発表してもらっている、その名言を書く紙）に、みんなが見えるように一つ選んで書いて欲しい。（床にあらためて「えらぼう！」という紙を置く。）みんなで深く考えられる問い、みんなで深く掘りながら話ができそうやなっている問いを、たくさん思いついたところや少ないところもあるかもしれないけど、一つ選んで、紙に書いて、それぞれのグループに発表してもらって、床に置いてもらうからね。そしてその中から、明日話し合う一つの問いを選びたいと思います。いいですか。（紙とマジックを各グループに配る）

(話し合っている間に) どうしてその問いが深く話し合えるかの理由も考えてよ。みんなが話をすると、どうしてそれが深く話し合えるのかな一つね。

教師：それでは、一つずつ言ってもらうからね。理由を聞きながら、この話でできそうかなというのを選んでもらうからね。そしたら、こちらのグループからどうぞ。みんなの方に見えるように言ってね。

G1：（代表者が紙をみんなに見えるようにかざして）「なぜ木はしゃべれるのか」。理由は、ほとんどの本は、木がしゃべれるとか、心の声とかが多いけど、この大きな木の木は

しゃべれてるから、「なぜ木はしゃべれるのか」にしました。（教師は書いた紙を床に置く）

G2：私たちは「木はなぜ少年が年をとっても、小さいころにやったことをさせようとするのか。」という問いです。この本を聞いて、木が、少年が年をとっても、枝にぶら下がりなさいとか、木に登りなさいとか、言っているので、どうしてかなと思った。

G3：私たちは、「木は毎日少年のことを思っていたのか？」で、なぜこれにしたかというところ、みんな主人公の気持ちを考えるということは国語の授業でもやってるから、これがいいかなと思った。

（次のグループもそうだが、主人公の気持ちを考えるという発想がでてくる。国語の影響か）

G4：僕たちは、「少年は木がなくなっていくのになさくないのか」ということです。これにしようとした理由は、少年の言葉とか、思いとか、よく出てきたりしているから、そういうことで、少年の気持ちが分るかもしれないって、これにしました。

G5：私たちは、「なぜ少年は「木はお金を持っていない」と分るのにお金をちょうだいと言ったのか？」という意見になりました。その理由は、木は働いたり動いたりできないから、お金なんかないのに、少年は自分がお金に困っているから、お金を頂戴と木に言ったのかなって思いました。

G6：僕たちは、「木は、しゃべれないのになぜ、少年は木がしゃべる、言葉が、わかるのか？」で、なぜこれにしようかと思ったのは、あまり、本で、木と少年とがしゃべっているところがなかったから、これにしました。

G7：「木は体を切っても死ななかつたのか。」で、普通やったら、死ぬのにどうして命が助かったのかなって思って、これにしました。

G8：私たちのグループは、「少年はなぜ遠くに行つたのにまた戻つてきたのか？」です。理由は、せつかく木の幹を使って船を作つて、自分から遠くに行つたのに、ということなんです。

G9：私たちは、「なぜ木はそんなに少年をしあわせにしたいのか。」で、なぜこれにしたかというところ、何か、何か（と言ってなかなか説明ができない様子）……。

別の子ども：よく分らないので、もう一遍行って欲しい。

G9：私たちは、「なぜ木はそんなに少年をしあわせにしたいのか。」で、木は自分を犠牲にしてまで少年をしあわせにしようとしたから、「なぜ木はそんなに少年をしあわせにしたいのかがちょっと気になった。

G10：僕らの班は、「なぜ「大きな木」なのか。」という問いです。理由は、**Vさん**がいろいろな意味で大きいと言つたのが、そのいろいろが一つずつ調べたからで、もう

一つ僕は、これは簡単そうだから、簡単ということはみんなのできるし、みんなのできるということは、深くできるし、だからやってみたいと思いました。

G11：（今まで手をあげなかった子が説明）私たちのところは、「なぜ、題名が「大きな木」なのに、本の最後は「小さい木」になるのか。」という問いにしました。なぜこの問いにしようと思ったのかは、自分が切られても、木は何ともなくしているから、なぜかなと思った。

G12：僕らのグループは、「なぜ木は少年がおじいさんになっても「少年」と言うのだろうか。」で、理由は、さっきの話し合いでも、ちょっとだけ意見が出たから、意見が出たんだったら、ちょっと掘れるかなって思って、これにしました。

教師：はい、こんだけ出てきたんだけど、これ見て何かありますか。この問いに似てるな一とか。

（子どもたちは床の上にある問いの書いてある紙をのぞき込む）

教師：はい、Aさん。

A：（床がギシギシいっていて少しうるさくて聞き取れない）（結局**G1**の「なぜ木はしゃべれるのか」と**G6**の「木は、しゃべれないのになぜ、少年は木がしゃべる言葉が、わかるのか？」とが似ているということを言おうとしているようである。教師が**G1**の紙を**G6**の下に持ってくる）

I：えーと、**G11**のところと**G10**のところが似てると思って、**G11**のところは最終的に小さい木になるけど、大きな木っていうのはなぜかと、**G10**は全体として大きな木で題名が問題だから、これは似ている。

教師：題名が似ているということか。（G10とG11を一括りにする。）

E：**G11**のやつと**G10**のとは違うと思う。なぜなら、**G11**は大きな木なのかは、なぜ大きな木なのかは自分なりの答えを出しているけど、**G10**さんはそれを直接出している。

教師：なるほど。・・・どうですか。そしたら、どうしようかな。この中からどれを話したらいいかなんだけど、みんなで深く掘れる問いというのは、どうでしょうねー。Oさんが言ったね、みんなで簡単な問いだったら深く掘れると、言ったね。でも簡単でない問いでも深く掘れたよね。・・・Eさんも言っていたよね、国語の気持ちと言っていたよね、まー、国語の気持ちということでも、この授業は一応道徳なので、国語の気持ちと言ったら、国語のようにできると言ったら、国語の授業ですればいいな一、というのもあるし、難しいところやな。それでは、聞いてみようか。どれか一つ選んでみー。ちょっと歩いて行って見ていいよ。

(子どもたちは立ち上がって床に書いてある問いを検討し始める)。
それでは元に戻って下さい。

(子どもたちからグループの問いを選んでいいかという質問があったり、どれを選ぶかグループ3人の意見が違ふときはどうするか、という問いが子どもから出て、教師は結局、子どもたちに自由に手を挙げさせる)

「なぜ木はしゃべれるのか」⇒0

「木はなぜ少年が年をとっても、小さいころにやったことをさせようとするのか。」⇒4

「木は毎日少年のことを思っていたのか？」⇒0

「少年は木がなくなっていくのになさしくないのか」⇒9

「なぜ少年は「木はお金を持っていない」と分るのにお金をちょうだいと言ったのか？」

⇒0

「なぜ木は少年がおじいさんになっても「少年」と言うのだろうか。」⇒8

「木は体を切っても死ななかったのか。」⇒3

「木は、しゃべれないのになぜ、少年は木がしゃべる、言葉が、わかるのか？」⇒1

「少年はなぜ遠くに行ったのにまた戻ってきたのか？」⇒1

「なぜ木はそんなに少年をしあわせにしたいのか。」⇒0

「なぜ大きな木なのか」⇒2

「なぜ、題名が「大きな木」なのに、本の最後は「小さい木」になるのか。」⇒2

教師：一番多かったのは、9人で「少年は木がなくなっていくのになさしくないのか」という話。さあ、「なぜ木は少年がおじいさんになっても「少年」と言うのだろうか。」は8人。どっちがいいと思う。この二つの中から一つ選びたいと思います。深く掘れるのはどっちか。

「なぜ木は少年がおじいさんになっても「少年」と言うのだろうか。」⇒14

「少年は木がなくなっていくのになさしくないのか」⇒19

それでは、次は「少年は木がなくなっていくのになさしくないのか」について話そうか。